

植物園整備に係る説明会 質疑回答（3/18,3/20～22）

番号	意見・質問	回答
1	北山エリア基本整備計画とは大きく異なっているが、当初計画からの変更や計画そのものを断念されたのか。	北山エリア基本整備計画は当時想定されるものを最大限盛り込んだイメージを示したのですが、整備に向けては、植物園や府立大学、共同体育館など、それぞれの施設において論点が多岐に亘るため、有識者意見聴取会議や府民ワークショップ、地域の自治会役員の方々、近隣の小中学校や福祉施設に御意見を伺いながら検討を進めてきたところであり、変更や断念をしたのではなく、あくまでも計画の延長線上で議論を行ってきた結果と考えています。
2	北山エリア基本整備計画に示されていた植物園のアミューズメント機能については大きく削ったのか。	こどもや若い方々をターゲットとして、学習をキーワードにアミューズメント機能を検討してまいりました。自分が鳥になった視線で植物が観察できるキャノピーウォークの設置等、別視点で興味深く植物を観察していただけるような施設の設置を検討しています。
3	当初の北山エリア基本整備計画では北山通り沿いのウバメガシを切って、いくつか出入口を作って行き来ができるようにすることや賀茂川との往来を自由にするようなことが書いてあったがどうなったのか。 植物園の出入りを自由にして公園にしてしまう計画はどうなったのか。	そもそも北山エリア基本整備計画で示した矢印は出入口を新たに作ることを示すものではなく、概念的に外との拡がりを示したものです。そのうえで、現在、賀茂川沿いの半木の道側、ウバメガシについては、現状のままとしています。 なお、京都府として、これまで植物園の出入りを自由にして公園にするということは言ったことはありません。
4	昨年1月末にKPMGから出された北山エリア整備事業手法等検討業務に係る報告書のなかで、植物園の整備運営スキームとして、PFI的な手法が記載されていたが、これについては考えないとの理解でよいか。	北山エリア整備事業手法等検討業務については、あくまでも民間事業者から整備にあたっての1つの提案ということで京都府は受け止めています。 そのため報告書が前提ではなく、今後様々な御意見も踏まえる中で、最も適当な手法を検討していきたいと考えています。

番号	意見・質問	回答
5	<p>最初に将来ビジョンがあって、コンセプト、取り組むべき内容が示されていた。その中で特に強調されたのが生物多様性の保全であり、植生の保全や希少植物の保全、研究、データの保存等の基本コンセプトや今後の植物園のあり方のお話を聞いて安心した。将来ビジョンやコンセプトを大事にさせていただいて、今後とも植物園を発展させていきたい。</p>	<p>大きな将来ビジョンとして未来への種をまく植物園を掲げさせていただきました。コンセプトに定めた学びの入口としての学習機能や植物多様性の保全を通じて、京都から世界の生物多様性保全に貢献するような植物園として発展させていきたいと考えており、そのために必要な施設整備について、しっかりと進めていくこととしています。</p>
6	<p>植物園の未来に向かっての全体像としては、とても良いと思っている。こどもたちが植物のことで知りたい時にすぐに聞くことができるような学習機能は大切であり、その中で、必要な建物があるのであれば作っていただきたい。</p>	<p>今回の議論の中で未来に向けた植物園のビジョンを示すことができたのが大きな成果だと考えています。施設整備はまだまだ多くのステップを踏んでいく必要があるため、まずはわかりやすい展示の工夫等、ソフト面を職員一同、園全体で検討していき、今後の施設整備にも繋げていきたいと考えています。</p>
7	<p>北山エリア基本整備計画を聞いた時は非常に驚き、とても心配だったが、この説明を聞いて非常に納得し安心した。今後も京都府と植物園が一体となって動いていってほしい。</p>	<p>もとより、「生きた植物の博物館」の理念の下、未来への種をまく植物園として、京都から世界の多様性保全に貢献していきたいと考えており、今後とも京都府の一地域機関として植物園の充実に努めてまいりたいと考えています。</p>
8	<p>議論が施設整備中心になっているが、植物園の意義等の本質的な部分を啓蒙するのが本来の府の仕事ではないか。</p>	<p>次の100年に向けた植物園の将来像として京都から世界の生物多様性保全に貢献することを掲げており、そのために必要な公園的機能と博物館機能の拡充を示させていただきました。ハード、ソフト両輪で府民の皆様に喜んでいただける植物園づくりを進めていきたいと考えています。</p>
9	<p>非常に良い計画で、樹木がたくさん守られるということで大変うれしく思っている。計画倒れにならないかだけが心配であり、この計画を育てていく意気込みを聞かせていただきたい。</p>	<p>府の財政が厳しい中ではありますが、次の植物園の100年に向けて、次代を担うこどもからお年寄りまで、すべての方に有益となる投資だと思っておりますので、その投資に対する財源確保面も議論して、着実に進めていきたいと考えています。</p>

番号	意見・質問	回答
10	府立の施設なので、府北部に住んでいる府民の方にも何らかのメリットがあることが必要。植物園外への取組の拡大については具体的に何か考えているのか。	例えば、希望された地域へ出向き、植物の話や研修をする出前授業等の取組を考えています。また、YouTube等も活用し、植物園になかなか来れない方にも植物園の魅力についてPRを行っていく必要があります。 更に植物保全としても府北部には貴重な植物が残っている地域もあり、多様性保全の観点からもしっかり貢献していきたいと考えています。
11	今回の計画では賑わいという表現がないが、賑わいを目的としたものではないのかを確認したい。植物園に賑わいを持ち込むことは反対である。	賑わいに関しては様々な捉え方があると思いますが、今回の整備を機に多くの方が植物園に関心を持っていただき、来ていただきたいという思いであり、イベントばかりをするようなことは考えておりません。
12	参加したワークショップでは植物園を賑やかにするという意見が多くて驚いた。賑やかになるのも大切だと思うが、静かに癒される空間を求めてこられる方が大半だと思う。高齢者や障害のある方が、やすらげる場所であって欲しい。	ワークショップの中では賑やかにするとの御発言もあったとお聞きしています。快適な施設環境の提供を考えておりますが、必ずしも賑やかさだけでなく、魅力向上と生涯学習支援をセットにしたものを考えています。 また、周辺の福祉施設の方々とも意見交換をさせていただいており、バリアフリー、ユニバーサルデザインの考え方も盛り込む方向で検討しています。必ずしも子どもたちだけではなく、すべての皆さまに使いやすい施設の詳細な検討を行っていききたいと考えています。

番号	意見・質問	回答
13	<p>こどもの森、親子ガーデン、博物館機能の向上、学びの向上等、整備の考え方はいいと思うが、植物園会館の拡大や標本庫や新温室が建てられると、建物が増える、その分の植物は伐採されるのではないか。</p>	<p>お示ししたのは、あくまでもゾーニングであり、詳細な規模や設え等はこれから詰めていくことになります。</p> <p>植物園内の樹木は全て大切な木であることは承知しており、樹木への影響は植物園職員のワーキングでも議論をしているところです。園の歴史を象徴する来歴の個体、または学術的・景観的・機能的価値が相対的に高い個体である 歴史遺産 樹木（38個体、約100本）には影響がない場所で建物等の配置は検討させていただきました。一部樹木への影響は考えられますが、最小限の伐採に留めるとともに、移植や植え替えが可能な樹木については植物園職員の知見を活かし、移植等の準備を入念に行うことで、影響を最小限に留めたいと考えています。</p>
14	<p>建築物を建てるのであれば、京都府産の木材の活用や、資材が自然に還元されるような建築工法の研究も進んでおり、そのようなものを取り入れてはどうか。詳細等の設計を行う中では、京都の素晴らしい建築家とも連携し、未来に向けて京都らしい素晴らしい建物を作っていただきたい。</p>	<p>建物の詳細検討については今後進める予定であり、その中で、しっかりと検討して参ります。京都府府内産木材の利用等の促進に関する条例もあり、京都府産の木材は積極的に活用していきたいと考えています。</p>
15	<p>植物園は鳥獣保護区にも指定されており、他の生物にとっても重要な場所なため、できるだけ影響のない方法で改修開発の手法を検討してもらいたい。</p>	<p>生物多様性や景観、樹木についても十分配慮の上検討していきたいと考えています。また、そうした生物多様性保全の大切さ等も伝えていく努力をしていくこととしています。</p>
16	<p>植物園であれば、景観の問題は整備計画の骨格になるのではないかと考えている。景観の保全はどのように考えているのか。</p> <p>ランドスケープデザインについての議論経過があればご教示してもらいたい。</p>	<p>景観保全は重要と考えており、大正13年に開園してから基本骨格部分については、100年間変えておりません。今後も景観を大切に、古い樹木等にも配慮しながら検討を進めていきたいと考えています。</p> <p>必要な機能をもとに想定される施設をゾーニングしたものであり、ランドスケープデザインの専門家等については今後の詳細検討の中で聞いてまいりたいと考えています。</p>

番号	意見・質問	回答
17	<p>配置図1と配置図2を比較した場合、現時点での優先案等はあるのか。 配置図1だと入口のメインの大空間のところに目隠し植栽ができてしまう。配置図2の方が入口のところに大きな広場的な空間ができ、場所としての魅力があるのではないか。</p>	<p>現時点でどちらが優先案か等の考えはありません。正門からの景観は非常に大切な要素と認識しており、そうしたものにも十分に配慮しながら、具体的に検討を進めてまいります。</p>
18	<p>雨の日に植物園を訪れ、温室だけに行くような利用者は考えられず、雨の日対策は不要であり、温室まで続く軒は不要ではないか。</p>	<p>例えば遠足等で来られるお客様もおられます。植物園は雨が降った時に避難できる場所がないことが昔からの懸念事項であり、そうした対策として軒を考えています。</p>
19	<p>ばら園や四季彩の丘等に日差しを避けられる場所が少なく、真夏の暑い時期に1日滞在するのが本当にしんどい。そのような暑さがしのげる施設を考えてもらいたい。</p>	<p>同様の要望はかなり多くいただいているところです。 熱中症対策として大屋根広場も活用できると考えており、ご要望の観点からも検討してまいりたいと考えています。</p>
20	<p>現温室は築30年しか経過しておらず、個性的な建物で、非常に印象深い。建て替えではなく、修繕することはできないのか。</p>	<p>非常に複雑な構造のため、雨漏りがかなりひどく、配管、ボイラー等の内部も相当傷んでいるなど、老朽化がかなり進んでいます。 先進地も視察した上で、園職員ワーキングでも検討し、修繕では問題の根本解決が図れないため、建替えが適切ではないかと考えています。</p>
21	<p>100年もつ温室を目指すとしているが、具体的に設計、施工、メンテナンス手法の案をもし考えているのであれば、教えていただきたい また、温室の建替えにあたって、今後、海外の植物をどんどん増やしていくような考え方はあるか。</p>	<p>現在の温室の問題点として、複雑な構造であるため、可動窓等の負荷がかかる部分で故障することが多いことから、そうした欠点は解消を図り、できるだけ長く使える構造の観覧温室にしたいと考えています。 植栽については限られた面積を活用し、どのような種を収集する必要があるか、今後検討していく予定です。</p>
22	<p>バックヤードツアーで仕事や日々の努力をみせることはすごくいいことであり、ぜひ実施してもらいたい。</p>	<p>バックヤードツアーも含めて詳細な取組は、今後詰めていきたいと考えています。</p>

番号	意見・質問	回答
23	<p>既に入出口が4つある中で、更なる入出口は不要ではないか。</p> <p>北泉門を利用する方をほとんど見かけたことがなく、整備した理由を教えてください。他に門を作るのであれば廃止すればよいのではないか。</p>	<p>出入口については現時点で定まった考えはなく、設置については、今後の各施設の詳細検討を進める中で議論していきたいと考えています。</p> <p>なお、北泉門は平成21年度の「魅力あふれる施設整備計画」の中で、府立大学や京都学・歴彩館等の北山エリアに来られた方の利便性を考えて設置したものです。</p>
24	<p>ビジターセンターとはどのようなものをイメージしているか。</p>	<p>現在、来園者の御質問や開花状況をお答えするのは、入園門の受付スタッフが対応していますが、様々なお客様の要望に応える等情報発信をする場所を想定しています。</p>
25	<p>レストランを建ててもすぐ潰れると思うのでレストランは不要。既に園内にある森カフェや周辺商店街との連携で十分ではないか。</p> <p>また、新たにレストランが整備されることによって、現在の森のカフェはなくなるのか。</p>	<p>景観や花を眺めながらコーヒーを飲んでリラックスしていただくなど、単に観察だけではなく、休憩できるエリアについて、以前から府民や利用者の方からも意見を頂戴しておりました。広い園内において水分補給などで必須のものと考えており、詳細については、今後、ノウハウのある民間事業者も交えながら、現在の植物園の環境と調和がとれたような整備の検討を行っていきたくと考えています。</p> <p>なお、森のカフェは継続する予定であり、閉鎖する等は考えていません。</p>
26	<p>遠方に住んでいるため、1日滞在する利用をしている。植物園の中に入り、外に出るには距離があるようなところにレストラン等の食事ができるところが整備されるのは本当にありがたい。国内海外の他の植物園でももっと小奇麗なレストランに入ることができているので、府立植物園も何とかならないかなあとは思っていた。</p>	<p>できるだけ長い時間滞在いただき、1日を通して植物園を楽しんで欲しいという思いがあり、こうした点からも食事ができる場所は必要と考えています。</p> <p>先進地へ視察した中では、園内にカフェがあり、1日中落ち着いて座っていただけるようなところもありました。緑に囲まれたところで、やすらいでいただくことは必要と考えています。</p>

番号	意見・質問	回答
27	現在北山門にあるインザグリーンができたことで、周辺の樹木に影響が生じた等の検証はされているのか。	木が枯れた等の影響はありません。 インザグリーン内には植物園内に入ることができる入口もあり、そこからの入園者も多くおられるので、植物にあまり関心のない方が、植物園に入るきっかけとなるような好循環が起きていると認識しています。
28	キャノピーウォークを作ること考えられる植栽や周辺の虫や鳥等に影響はどのように対応する予定か。 安全性への懸念もあり、詳細を検討しているのであれば教えてもらいたい。	学習面として上から植物を観察するのは効果的と考えており、できる限り木に負担が少ない形で検討していきたいと考えています。関連する生物についても、できるだけ負担が少ない方向で検討してまいります。 施設の詳細については今後の検討だが、材質、安全対策等、専門家等と相談して検討していきたいと考えています。
29	ただ散歩して終わりではなく、中高生20代30代の人たちが植物を見る目的として、植物園に足を運ぶように、キャノピーウォークのような色々な角度から植物園を楽しめるようなハードを充実して欲しい。	学習面として上から植物を観察するのは効果的と考えており、できる限り木に負担が少ない形で検討していきたいと考えています。
30	こども向けエリアとしてどんぐりの森、こどもの森、100年の森が掲げられ、広い場所をとっているが、こどもにすり寄りすぎているのではないか。 エリアの再検討はできないのか。	植物園は生涯学習施設であるため、全ての世代の方に学んでいただきたいことが前提になります。そのうえで、小さいときに植物の魅力に触れていただくと、大人になってからも植物園に来ていただけることになり、ぜひ、こどもの方に伝えていきたいと考えているところです。 ゾーニングについては対象年齢に応じた配置であり、ワークショップ等の活用も想定しています。
31	どんぐりの森ができるということでこどもたちが自由に持って帰れたり、触ったりできる場所ができることを大変うれしく思っている。 こどもだけでなく、障がい者にとっても植物に触れる取組は重要であり、そうした目線も取り入れて取組を十分に考えてもらいたい。	障がい者に対する取組や使いやすい施設は必須と考えています。 インクルーシブで誰もが使いやすい施設を整備し、様々な植物を知って楽しんでいただく取組を考えていく予定です。

番号	意見・質問	回答
32	標本庫を優先して整備したいという話だが、どの程度の規模の建物を予定しているのか。	具体的な面積や収集する標本点数はまだ決まっておらず、今後詳細を検討することになります。京都の植物保全に対して責任を持つということを目指して定めており、それに対して必要な面積を検討して決めていく予定です。
33	なからぎの森を学習の場にするとのことだが、なからぎの森は鬱蒼として、人が入らないところに価値があると思っている。最近スカスカになっているように感じており、今のままの姿を大事にして、人が入らないようにしてほしい。	なからぎの森は鳥が落とした種子等を取り除く等して、手を入れて原植生の状態を維持しているエリアであることを御理解をお願いします。最近明るく感じるようになってきたのは、このような作業の結果だと思います。 なお、ガイドツアー等での活用を想定しており、踏み荒らすようなことはイメージしていません。
34	植物生態園は、現在、日本中の植物が植わっているが、絶滅危惧種の保全地域となり、現在の植物は抜いて、京都府の植物だけのエリアにするのか。 植物生態園の面積を増やすことはできないのか。	懸念されているような北海道の植物や沖縄の植物を外していくということではなく、大きく変えることは考えておりません。 現在の面積でも維持が大変なので、拡大は難しいですが、京都の植物や山の植物を学んでもらうエリアとして機能強化していきたいと考えています。
35	植物学的な研究拠点になるのは大賛成である。研究を推進することは植物園としてよい方向だとは思いますが、予算や人員が必要になる。どのように考えているか。 また、京都には自然史系の博物館がないと言われており、京都府立植物園が京都府の自然に関する研究啓発拠点になることも考えられるのではないか。 隣接する府大の優れた研究蓄積も活用し、展示、或いは、普及啓発にかかるワークショップのテーマに関連づけ、植物学的なものだけでなく準植物的なものも主題化して欲しい。	京都府の財政状況は厳しい中ですが、しっかりと未来へ投資することは重要と認識しています。優先順位もつけながら整備を進めていきたいと考えています。 京都府には自然史博物館がありませんが、植物に関しては植物園において、近いものをスタートできると認識しています。まずは植物園が中心となり、府立大学とも協力して、昆虫や土壌、ひいては生物多様性保全をテーマとして学際的な研究ができる場にしていきたいと考えています。
36	大学や研究施設ばかりではなく、深泥池や北山の賀茂川周辺の環境をもっと大事にして、連携を取ってほしい。	府立植物園では現在でも深泥池の水草水生植物の保全や域外での保全を行っており、貴船、雲ヶ畑の保全団体とも連携しています。

番号	意見・質問	回答
37	<p>大人が植物に対しての思いやりを持っていただけるよう、大人の方にも学習していただけるような機会を作っていただきたい。</p> <p>隣には府立大学もあり、連携をしながら研究を深めることで魅力があがるのではないか。</p>	<p>今回お示した大きなビジョンの三本柱の一つに、生涯学習を入れており、大人の方に対する学習機会の提供について、しっかり検討をしていく予定です。</p> <p>生物多様性センターも設置されることになっており、整備予定の学習拠点・標本庫を中心に、様々な主体と連携をしながら取組を進め、幅広い世代の方に学んでもらえるよう取り組んで参りたいと考えています。</p>
38	<p>今後、京都の自然環境を守っていく上で、子どもたちや若い人たちに知ってもらうことはすごく大事。子どもたちが植物採集をして、名前がわからなかったら植物園に持って聞くことができるような取組はずっと続けて欲しい。</p> <p>中高生に向けた視点も少し抜けているので強化してもらいたい。</p>	<p>現在、夏休みには学習相談会もしておりますが、残念ながら子どもたちの参加がどんどん減ってきている状況です。また、中高生に対するプログラムも非常に弱いと認識しています。</p> <p>子どもたちや中高生の方にも楽しんで足を運んでいただけるよう検討してまいりたいと考えています。</p>
39	<p>遠足で子どもを連れてくることがあるが、植物園のことを意外と知らない子どもが多い。子どもたちにも幅広く植物学習ができるよう観察プログラム等を組んでもらうような取組を行ってほしい。</p>	<p>学習プログラムはこれからの植物園にとって一番大事なことだと考えています。</p> <p>例えば、先生が子どもに説明ができるようになるような、先生向けの取り組みも必要と認識しています。</p> <p>現在、弱い部分でもあるため、しっかり勉強して工夫していく予定です。</p>
40	<p>ITの進歩は非常に早いけどどもはどんどん対応していく。ITを活用してこどもの興味がわくようなツールを考えてもらいたい。</p>	<p>植物園を子どもたちの学びの入口として学習支援機能を強化していきたいと考えており、その中に当然ながらITの関係も含めて進めていく予定です。</p>

番号	意見・質問	回答
41	<p>学習拠点や標本庫、新温室等を建設すると、施設を機能させるためにソフト施策も必要であり、施設維持や人材確保に予算が必要になる。現状でも植物園の予算が苦しい中で、今後、どのように予算を確保するのか。</p> <p>また、今回の整備に伴う概算事業費等は出しているのか。</p>	<p>京都府全体の財政状況が非常に苦しい中ではありますが、次の100年に向けた投資ということで、しっかりと予算を確保していきたいと考えています。他方、持続可能な財政の検討も必要なので、バランスを取りながら検討する必要があります。財源についても、外部の寄附やふるさと納税等、様々な方法が考えられ、植物園内で勉強会を今後行ってまいります。</p> <p>施設の詳細検討はこれからであり、概算事業費はまだお示しできる段階にありません。</p>
42	<p>現在の植物園は入園料が安く、無料入園者の対象も非常に広い。施設を維持するためには入園者や入園料は必要不可欠であり、入園料体系の見直しは必要ではないか。</p> <p>入園料に関して、どのようにされていくのか、ビジョンがあれば教えていただきたい。</p>	<p>現在の植物園は有料入場者が全体の3割、残る7割が無料入場者となっており、課題と認識しています。</p> <p>直ちに入園料をあげることや見直すことは検討していませんが、施設の整備・維持には非常に経費がかかるのも事実です。外部資金の活用等も考えておりますが、入園料も中長期的には見直しを検討する必要があると考えています。</p>
43	<p>現在の植物園は入園料1回200円、年間パス1000円だが、温室入館料も含めた年パスや動物園水族館との共通年間パス、京都市内博物館との共通年間パス等、様々な形態のチケットがあってもいいのではないか。</p>	<p>動物園や水族館は府立施設ではないので、どこまで拡充できるかは明言できませんが、検討させていただきたいと考えています。</p>
44	<p>とてもいい計画でぜひ実現してもらいたいが、現在の植物園の職員体制で実現できるか不安。どれくらいの体制が必要と認識されているか。</p> <p>建物ができれば、博物館になるんじゃないかと、それをどう活用するかという、人的ソースが非常に大事。</p>	<p>現在、職員は34名で、うち栽培や学習をしている技術職は25名程度です。具体的な人数は算定できておりませんが、公園機能と博物館機能の両方を広げるとなると現在のマンパワーでは難しいと認識しています。</p> <p>今後、標本庫や展示等の取組を進めるうえでは、例えば学芸員の配置等、体制確保を検討していきたいと考えています。</p>

番号	意見・質問	回答
45	現在、学芸員が不足している中でNPOやボランティアの方に案内してもらっているが、今後は学習を兼ね、府民市民の協力を求めることも必要ではないか。	ボランティアは現在約150名が在籍しており、ボランティアなしでは運営できない状況です。他にも様々な団体や府立大学、京都大学の先生方とも協働している状況であり、今後も幅広い方と協力しながら進めていきたいと考えています。
46	整備が始まると、何年間か植物園が利用できなくなってしまうのか。	園全体を同時に工事をするのではなく、計画の目途が立った箇所から進めて行くこととしており、ご安心ください。
47	植物園の魅力とはどのように考えているのか。何もない自然や憩いの空間こそが植物園の魅力ではないか。	「公園的機能」と「植物学・博物館的機能」の両方あることが植物園の定義となっており、当園は「植物学・博物館的機能」が弱いと認識しています。植物園の歴史を積み重ねてきた府立植物園の園内は、自然的な空間となっておりますが、植物園で学んでもらう要素は大切と考えています。
48	植物園をイベント会場にせず、自然を五感で感じ、子どもたちが五感で育っていくような場所にしてほしい。静かに安心して散歩とかできるような環境を壊さないように、是非ともお願いしたい。	植物園は五感を育てる場ということは十分認識しており、大事にしていく要素と考えています。
49	大屋根や子育て施設、標本庫、賀茂川の植生等が学習できる新規展示エリア等の説明があったが、人間の安全や衛生等の最低限のところに抑えて、現在の植物園の良好な環境や景観を維持するために、何も手を加えず、このままにしてもらいたい。	公園的機能と植物学的機能があるのが植物園であり、これまで、樹木医の資格を有するなど、植物園の事をもっともよく知る植物園職員が、様々な手を加えてきたからこそ、開園時から良さの変わらない植物園を維持してきたところです。今回示したゾーニングは、これまでの課題である雨天時への対応や、当園の魅力向上に繋がるような学習、標本保全等、植物園の様々な機能を拡大するための計画であり、来園された方が植物を好きになってもらうような展示やプログラムを検討していきたいと考えています。

番号	意見・質問	回答
50	<p>現在の植物園は一般人からすると、ときめきが少ないと感じる。入口は何個かあるが古く、園内の清掃も行き届いていない。動物園に比べると、こどもたちや観光客の方を引き付ける魅力として、さすが植物園だなというものが今はないと思っている。</p> <p>現状でもお金をかけずにできることは多くあり、すごく魅力的なところになって、地元のこどもたちも植物園に行けばなにかつろぐというような場所になって欲しい。</p>	<p>植物は動物に比べて動きがなく、伝え方が下手な部分もあるので、そこは改善点だと考えています。見やすい展示の工夫など来園者の視点に立った展示というところはしっかり考えていかなければならないところです。</p> <p>経費が生じないワークショップ等、ソフト面はやれるところからやっていき、魅力を高めていきたいと考えています。</p>
51	<p>個別の施設についてそれぞれ検討し、植物園の具体的な話が概ね固まったため、説明会を開催したとのことだが、全体の計画はどうなっているのか。</p>	<p>施設ごとにしっかりと議論をした上で、全体の調和が必要だと考えており、全体の調和についてもまとまった段階でお示しし、ご説明させていただきたいと考えています。</p>
52	<p>植物園は植物園、総合資料館を総合資料館で考えるのではなく、そこをつなぎ合わせて、もう一度大きなグランドプランを考える必要があるのではないか。</p>	<p>北山エリアに整備予定の施設については非常に論点が多岐にわたるので、施設ごとにしっかりと議論を進めているところです。当然、全体の調和が必要だと考えており、全体の調和についてもまとまった段階でお示しし、ご説明させていただきたいと考えています。</p>
53	<p>全体の計画を検討する中で、今回の説明内容が変更になることはあるのか。</p>	<p>全体調和を検討する中で、一部変更する可能性は排除できませんが、大きく変わることは想定していません。</p>
54	<p>北山エリアは学術的なエリアとして、今後100年、200年先まで発展して欲しいと思う。アリーナ、スポーツ施設や賑わい施設はこのエリアには向いていないと考えるがどうか。</p>	<p>植物園以外の施設も含め、様々な方々のご意見を伺っている段階であり、しっかりと議論をした上で、全体の調和についてもまとまった段階でお示しし、ご説明させていただきたいと考えています。</p>

番号	意見・質問	回答
55	アリーナが建設されるとバラ園の横に巨大な壁ができ、景観や日照に影響が出る。また、交通渋滞等も発生し、植物園に大きな影響が考えられる。アリーナは不要と考えるがどうか。	<p>有識者による意見聴取会議を設置し、専門的な視点から議論を進めているところであり、規模や位置等の詳細は決まっていません。</p> <p>規模ありきで考えてはならず、幅広くご意見を伺っている段階であり、学生主体のワークショップも開いているところです。こういった様々なご意見もお聞きしながら進めていきたいと考えています。</p> <p>なお、日照や景観等についても十分配慮し、各種法令等に合致するような検討を進めてまいります。</p>
56	植物園側の要望として、アリーナを作らないでほしいと要望を出したらいいのではないか。植物園側はどのように考えているのか。	京都府内にある組織であるため、バラ園への影響が出ないよう日常から意見交換をしており、配慮されるものと考えています。
57	アリーナ計画の中にハンナリーズは関係しているのか。	府立大学の共同体育館については、建替えに合わせて、多機能多目的なものを建てるということで検討を進めているところであり、多機能多目的という部分について、ハンナリーズには、一事業者の立場で意見を聞いておりますが、共同体育館の建替えにあたって特別な関係があるということではありません。
58	資料館の跡地を植物園にして、そこに自然史博物館等、建物施設を作ってはどうか。	植物園サイドから見れば、そういった意見もあろうかと思いますが、資料館跡地は舞台芸術や視覚芸術を实践するような文化施設の建設を予定しています。

番号	意見・質問	回答
59	<p>旧総合資料館跡地に計画していたホテル計画はどうなったのか。</p> <p>旧総合資料館跡地活用検討会にデービッド・アトキンソン氏等の森ビル株式会社の関係者が出席しており、ホテル建設にも同社が関与しているのではないか。</p>	<p>旧総合資料館跡地については、有識者会議を立ち上げ、専門的な視点から議論を進めるとともに、府民ワークショップや、近隣の方々さらには近くの小中学校幼稚園等、ご意見を伺っている段階です。ホテル建設が決まっているものではありません。</p> <p>旧総合資料館跡地活用検討会に同氏が参画していた事実はありますが、視覚芸術や舞台芸術の拠点施設の検討の中で、森美術館を有している知見をお聞きする趣旨で選定したものです。</p>
60	<p>今後も随時色々なことを考える場や機会を持っていただきたい。市民も巻き込んでもらいたい。</p>	<p>行政だけでは解決できないと考えており、大学や行政、地元自治会、NPOなど、様々な団体と連携しながら進めてまいりたいと考えています。</p>
61	<p>専門家の有識者会議も大事だが、一般府民の意見を聞くような場を今後設ける予定はあるのか。</p> <p>周辺住民の意見を聞いたと説明しているが、学区自治会等の役員だけで、北山エリアに関係のない機会を利用して意見を聞かれているものである。全ての家庭から聞いているわけではなく、幅広く意見聴取をしたとはいえない。</p>	<p>地元自治会への聴取については、特に京都市、各区役所にもご意見や手法等を伺いながら、検討してまいったところです。</p> <p>地元の自治会の役員の方からご意見を伺った内容は、あくまでも全体のうちの一つであり、他にも学校関係は幼稚園、保育園、小中学校、福祉施設等の意見や、府民ワークショップも開催しています。</p> <p>今回の説明会も定員では600名の皆様のご意見をお伺いする場を設けさせていただいており、こうしたことを通じて幅広く御意見を伺ってまいりたいと考えています。</p>
62	<p>職員にプロジェクトチームを作って、意見をしたという話があったが、プロジェクトチームの会議の回数や参加者、意見がどこに反映されてるのかというのを聞かせていただきたい。</p>	<p>職員によるグループワーキングは15回実施しており、説明内容や図面は概ね職員の意見となっています。職員意見をベースとして有識者懇話会等の意見を反映させてもらっています。</p>